

2008 年度事業報告書

病児・障害児のきょうだいに対する支援活動

のびのびヒーローズ・ダダ



はじめに

「2008年4月から1年間、日本財団の助成金がつきました」と報告を受けた時は、正直いってどうしたものかと思いました。やりたいことは沢山思いつきますが、実際にきょうだい児本人たちがやりたいことなのか暗中模索状態だからです。計画を書き出してみたものの、実現するには多くの協力を必要とすることばかりでもあったからです。難病児・障害児のきょうだいは、きょうだいどうしの関わりの中で、かけがえのない喜びや耐え難いつらい思いを経験します。私たちはその経験や思いを自然な形で無理なく共有できる場を作ることで、きょうだいたちが自らの人生を見つめ、振り返り、将来を考える手助けをしたいと考えています。

難病児・障害児の家族支援の重要性については既に語り尽くされ、医療・福祉や家族会・親の会が手を組んで活動している図がありますが、彼らの目的は難病児・障害児本人のケアです。「きょうだい」も含めた家族支援を実現していくためには、私たちのような団体が活動を行い、広めて行くことが重要です。しかし、設立間もない団体が、目新しい理念を掲げて活動を続けていくことは容易ではありません。幸運にも、私たちは助成金をいただくことで活動を続ける自信という無形の財産をいただくことができました。ありがとうございました。

ここで報告させてもらったものは、キャンプ2回とインタビュー2回です。これから何が成果だと思われるでしょうが、きょうだい児が確実に成長していることだけでもおわかりいただけたら幸いです。

のびのびヒーローズ・ダダ
服部いづみ

目 次

なつキャンプ 2008 案内	2
なつキャンプ日記.....	4
ファシリテーターの感想	1 3
参加児童へのインタビュー その1	1 5
参加児童へのインタビュー その2	3 3
はるキャンプ 2009 案内	3 5
はるキャンプ日記.....	3 6

なつ体験ジャー参加きょうだい

2008年

<http://dada2006.web.fc2.com/>
見てね!

病気や障害をもつ子どものきょうだいを対象に、ロッジを借り切って宿泊ワークショップを開催します!!

今回は、自然の中で劇作り体験をして遊びますよ～

- 2 日常生活から脱出したい人
- 2 他のきょうだいと時間を過ごしたい人
- 2 夏休みの思い出を作りたい人
- 2 もやもやした気分を吹き飛ばしたい人
- 2 自分をだすのが苦手な人
- 2 いつもと少し違う遊びに興味がある人
- 2 「役」を演じてみたい人

☆ファシリテーター紹介☆

根岸理恵…上智大文学部心理学科、ニューヨーク大大学院ドラマセラピー専攻卒業後、現在は東京インターナショナル・ラーニング・コミュニティや民間クリニックにて、主に発達障害をもつ子ども達とドラマセラピーグループを实践

HP: <http://dramatherapy.hp.infoseek.co.jp>

井口雅子…カンザス州立大大学院にてドラマセラピー及びチャイルドライフプログラムを学ぶ。現在、都内教育相談センターにて心理相談員として勤務。他、医療・福祉分野専門学校で非常勤講師を兼任 HP: www.dramatherapy.jp

など、じゃんじゃん申し込んでくださ～い!



◆キャンプの募集要領



なつ体験ジャー : 平成20年8月22日(金)～24日(日)

場所: 国立信州高遠青少年自然の家 <http://takato.niye.go.jp>
(長野県伊那市高遠町藤沢 6877-11、電話 0265-96-2525)

集合地: 8月22日(金)朝10時東京駅集合 解散地: 8月24日(日)午後3時頃東京駅到着

予定日程 (交通はバス、所要時間は4時間半程度)

一日目: 東京駅発→車内昼食→ロッジ到着→ドラマプログラム→夕食→敷地内散策→お風呂→ロッジ就寝

二日目: 朝食→ドラプロ→昼食・自由時間→ドラプロ→自炊・夕食→ドラマ発表会→お風呂→ロッジ就寝

三日目: 朝食→後片付け・連絡先交換→ドラマ最終章→ロッジ出発(車内昼食)→東京駅着

定員: 中学生きょうだい15名

先着順ですが、申込×切りは8月16日

参加費: 20,000円(バスチャーター代、食費、旅行損害保険加入費)

事前説明会: 8月17日(日)午後2時30分から文京区内で。(保護者と一緒にきてくださいね!)
場所は後日ご連絡します。



* 4時間半のバス移動ですので、バスに酔う人は酔い止め薬を持ってきてください。

他に熱が出た場合など、使いなれているお薬があったら、必ず持参してください。

お申し込みは裏面を使って FAX 042-576-0227 へ

“のびのびヒーローズ・ダダ” 代表: 永吉美智枝、大久保豪、服部いづみ

HP: <http://dada2006.web.fc2.com/> Eメール: dada2006@mail.goo.ne.jp



なつ体験ジャー参加申込書

日付 2008年

必要事項を濃い字で記入のうえ、FAXしてください。FAX: **042-576-0227** (服部方)

のびのびヒーローズ・ダダ 行

下記の通り、申し込みます。

ふりがな
名前

男

女

ふりがな
住所

〒

電話

緊急連絡先

生年月日 平成 年 月 日 歳

！ なつ体験ジャーに参加する

●事前説明会に参加する

！ 来年予定のふゆ体験ジャーの案内がほしい

キャンプに期待することを教えてください。

他の参加者に知ってほしい自分を3つ紹介してください(例えば、絵を描くのが好き、呼んでほしい名前、好きな言葉とか。バスの自己紹介ゲームに使うかもしれません)。

お父様、お母様へ:お子様の状態についてご記入ください。

食物アレルギーはありますか？

はい

いいえ

具体的なアレルギー食材を教えてください。

服用中の薬はありますか？

はい

いいえ

発熱や風邪薬や車酔いで、常時使用する薬はありますか？

はい

いいえ

持参いただくと有難いですが念のため、薬品名

その他、スタッフが留意すべき点をお教えてください。

のびのびヒーローズ・ダダ の なつ体験じゃー2008

平成20年8月22日(金)～24日(日)

記 録



8月17日 体験ジャー・親子説明会

1. のびのびヒーローズ・ダダの紹介

2. スタッフ紹介

はっとり 服部	いづみ	普通のOL、元ソーシャルワーカー
いくち 井口	まさこ 雅子	ファシリテーター兼ドラマセラピスト
おぎし 根岸	りえ 理恵	ファシリテーター兼ドラマセラピスト
さかもと 坂本	ふみえ 扶美枝	ボランティア/チャイルドライフ・スペシャリスト

3. みなさんの自己紹介

本日は5家族にお集まりいただいた。神奈川から2家族、千葉から1家族、埼玉から1家族、東京から1家族。

4. 子どもは別室へ移動し、キャンプに向けてアイスブレーキングタイム

呼ばれたい名前を紹介し、キャンプ中のルールを皆で決め、話し合った。

5. キャンプの説明

5. 1 日程 詳しくはしおりをご参照ください

8月22日(金) 午前10時 東京駅 鍛冶橋駐車場 発

8月24日(土) 午後4時半ごろ 東京駅 丸の内中央郵便局前 着

5. 2 旅行会社 毎日コムネット

〒101-0062 千代田区神田駿河台 2-8-4F

TEL: 03-3292-1305

担当: 高橋さん

5. 3 キャンプ中の連絡先

服部 携帯: 090-8462-5107

青少年自然の家 〒396-0301 長野県伊那市高遠町藤沢 6877-11

TEL: 0265-96-2525

FAX: 0265-96-2151

URL: <http://takato.niye.go.jp/>



5. 4 諸注意・連絡事項

最寄りの病院：長藤診療所（伊那市高遠町長藤坂山 1755-1）

TEL：0265-94-2001

荷物の確認、行きのお昼代、送り迎え、ルール説明など

6. 残った親同士は、日頃のきょうだい児の生活状況を話した。

きょうだい児の生活は学校の友達の生活とは違うということを親が具体的に話し、きょうだい児の生活ぶりを共有した。





のびのびヒーローズ・ダダ 「なつ体験ジャー2008」

2008年8月22日～24日 2泊3日 長野県 国立高遠青少年自然の家
参加者 子ども 5名 大人リーダー4名 バス運転手さん1±名

～ のびのび日記 ～

8月22日(木)

午前10時

東京駅

駐車場集合 体調を確認してから、バスに乗車。
みんな無事集合して出発！

DJタイム

小6の二人が自主的にマイクを持って、車中DJを始めました。歌まで歌ってくれて、ワクワク気分。

お絵かき伝言ゲーム

題名を一人があげて、絵を描きながら伝言。二列に分かれて競争。正確に伝言したチームがおかしをゲット。

首都高から中央道へ

談合坂SAでトイレ休憩



双葉SA

昼食休憩
ご飯を食べた後、ゆっくりと休憩して、出発。

DJタイム Part2

さいかーい。一人ずつ都市伝説を話したり、怖い話に変わったり。最後は運転手さんも巻き込んでしまいました。運転手さんの話が一番恐かった。運転手さんが、一番よくしゃべっていた。

午後2時半ごろ

国立高遠青少年自然の家に到着。

ロッジへ移動

ロッジを貸しきりだったので、自分達の寝床を好きに確保。2階は共有の広場としました。

しりとりで真剣勝負

まこちゃん&りえちゃんが敷地内を探索している間、皆が正座でしりとりゲームをしていました。勝っている人が正座していて戒律の厳しいゲームでした。

午後3時



皆で外に出て、ネイチャリングの始まり～

まこちゃん&りえちゃんコンビによる ドラマウオーミングアップ

「挨拶と皆で共有するルールの確認」（覚えたかな？）

いろいろな歩き方で池の周りを何回もぐるぐる。木の棒を頭にのっけて歩いたり。

「だるまさんの1日」

「司令塔ゲーム」

「袋のものは何？」



午後5時すぎ

ちょっと遅れて夕べのつどいに参加。だーれもいませんでした。明日は雨の気配がしたので、沢遊びの代わりにできる作品づくりの材料を探しに行きました。

夕食

食堂は他のキャンパーと一緒ににぎわっていました。バイキングだったね。

入浴

ロッジでしばらく休憩していたら、またしりとりを始めている人も。

午後7時半



本館の「三峰」に移動。

まこちゃん&りえちゃんコンビによる ドラマ作りの始まり～

「今日一日で印象に残ったこと」

「サウンド&ムーブメント」マイムのパス・動きのパス

「いろいろな歩き方」

「みんなの木」説明会で作った大きな木に絵を描いたり。

「今日の一言」

午後9時半ごろ

ロッジでトランプする人と真っ暗な敷地内を散策する人に別れました。暗闇散策、懐中電灯を持っていたにんにんは恐かったです。。。

午後11時ごろ

いちおう就寝。皆それぞれに自由にしていました。

8月23日(土)

午前6時半

起床



朝食

朝のつどいに続いて、食堂でバイキング

自由時間

おみやげを探したり、敷地内を散歩したり、あと何していたのかな？

午前9時

本館「三峰」に移動

まごちゃん&りえちゃんコンビによる ドラマ作りⅡ

「チェックイン」（今の気持ちをカラフルなスカーフで表現）

「サウンド&ムーブメント」動きのパス

「魔法の粘土」

「いろいろな歩き方」

「いろいろな役での即興」（親と子ども／先生と生徒になって）

「グループストーリーメイキング」

「場面の絵」

「チェックアウト」（今の気持ちをカラフルなスカーフで表現）



みんな、あのときの気持ちを思い出したかな～
外はあめでした。

午前12時ごろ

昼食は自然の家特製のお弁当をロッジ2階で食べました。

午後12時半から

沢遊びは断念して、作品づくり。ろうそく作ったり、ペインティングしたり、勾玉作ったり。思い出づくりできたかな。

午後3時

自炊準備開始、作品を作り終えた人から順々に自炊場に登場。

薪を割る人、野菜を洗う人、釜の火を起こす人、笹葉をつみに行く人、米を洗う人、卵を洗う人、野菜を切る人、ごはんを炊く人、親子丼を盛る人、味噌汁を作る人、いろいろやったね。火の担当班は顔を真っ赤にしてすすだらけで頑張っていました。ほんと、おつかれさまでしたっ。



午後6時

やっと夕食。

片付けもしっかりやりました。いろいろ教えてくださった地元の方に感謝。いやあー、勉強になりました。
残念だったのは、高価なスイカを割れなかったことです。

午後7時半

入浴を終えて、皆でアイスクャンディを食べました。
食べたいアイスがでてこなかったって？
まごちゃん&りえちゃんコンビによる ドラマ作りⅢ
「チェック・イン」（今の気持ちをカラフルなスカーフで表現）
「木の物語」作ったね。
「木の未来」描いたね。
「チェック・アウト」（今の気持ちをスカーフで表現）

思い出したかな？



午後9時半

ロッジに戻って、ファッションショーを始めました。皆、個性が光ってました。

午後11時ごろ

トランプしたり、ベッドで話していたり。好き勝手でした。
大人は疲れて眠りだしたり。
若者!?!はもっとしゃべりたかったのでしょう。全員がベッドから飛び出してきました。そこで、就寝時間を無視して、「しゃべり場タイム」をつくりました。
大人は、児童の気持ちを受止め、暖めて返すことができたかな。
皆、何か心の片隅に残ってくれていると嬉しいです。

8月24日(日)

午前6時半

起床。 昨晩は遅くまで話していたせいか、みんなぎりぎりまで寝ていました。

朝食

食堂でバイキング。食堂にいるキャンパーが一気に倍になり、びっくり。

午前8時

荷物をかたづけ、2階班と1階班と手洗い班に別れて、きれいに掃除しました。時間が余ったので、振り返りメモをかきました。ご協力ありがと！今後の参考にします。

午前9時



まごちゃん&いえちゃんコンビによる ドラマ作り最終章

「今までの振り返り」
「スペクトグラム」
「イメージ写真撮影」
「自分へのメッセージカード」



思い出づくりはできたかなあ。
最後に皆でナイスショット！！

午前11時ごろ

午前11時半ごろ

バスに乗り込んで、しゅっぱ〜つ。

お昼ごはん

小六チームがマイク片手にバスの中を盛り上げてくれました。おつかれさま〜。(大人は寝てしまいましたね)おなかが空いてきたので、お弁当をいただきました。外はどしゃ降りのあめ〜

ビデオ上映

ビデオ「ハリーポッター 賢者の石」を見ました。けっこう見とれてしまった…

談合坂 SA

トイレ休憩。外は引き続きのどしゃ降り

相模湖周辺で事故のけはい。運転手さんのキテンで、進路を変更し、関越で練馬に出る東京駅へ。無事、約束の4時頃に到着。運転手さんに感謝！！

午後4時すぎ

東京駅到着。家族が迎えに来てくれました。雨は止んでいました。皆けっこう、疲れてました。またね〜。



高遠の3日間、いままでとは違った体験をしました。ドラマ作りというものです。ここでは、自分の気持ちを表現することを学びました。その結果、参加した中学生や小学生でまとまろうという気持ちが強まり、最後の晩は噴火したようでした。こういったキャンプもあったことをときどき思い出してみてください。2008年夏の思い出のページとなることを期待しつつ。。。

成長した皆にまた、いつか会えることを楽しみにしています。



☆☆☆☆ 収支報告 ☆☆☆☆

品目	入金	出金	出金小計	備考
参加費	120,000			子供5人×20,000円 大人2人×10,000円 講師2人
国内旅行傷害保険 (三井住友火災保険)		500	7,000	
施設使用料			32,380	
クラフト代			4,700	
野外炊飯用貸出器具代			935	
食材費用			5,550	
お菓子代			3,890	
飲料水代			4,050	
救急医療薬代			3,280	
ドラマ関連材料費			7,572	
バス駐車代			2,800	
講師お礼		20,000	40,000	
運転手さんお礼		2,000	4,000	
残高 (バスチャーター代へ)			3,843	
合 計	120, 000		120, 000	

のびのびヒーローズ・ダダ



なつキャンプ 2008 のファシリテーターの感想

今回はいろいろな意味でチャレンジをさせてもらった気がしています。

泊りでのグループワークが初めてだったので、ドラマグループでのプロセスとあわせて刻々と変化していくグループメンバーの関係性に少々とまどったりもしました。また、そんな中でドラマの時間の目的をどこに置いていくのかを常に考えさせられた3日間でした。

今回は「ドラマ」をすると書いてはあったものの、やはりタイトルは「キャンプ」。キャンプという言葉からさまざまなキャンプ的アクティビティを子どもたちが期待するのは自然なことだから、その中でドラマプログラムがどのような位置づけで子どもたちに受け入れられるのか、受け入れられていたのか、やりながらいろいろと考えさせられました。実際に、ドラマの時間の体験が今後どう子どもたちの中に残っていくのか、いつか聞いてみたいものです。



ルールをどう扱いどう徹底していくのか、安心感をどう作っていくのか、常にチャレンジだったように思います。学校のように「教える」ことが主目的ではなく、YMCAのキャンプのように立ち返る「理念」みたいなものがあるわけでもなく、合唱部の合宿のように「練習」という柱があるわけではない中で、でもやっぱり大人として子どもたちに伝えなくてはいけないことの線引きを見つけることは、本当に難しかったです。

多分これは、始めと終わりがはっきりとあり枠組みを作りやすいドラマプログラムの中で子どもたちとの関係性と、その他の「日常」場面の中での関係性とが常にいたりきたりをする「泊まり」という初めての体験の中での、私のチャレンジだったのだと思います。ファシリテーターと「日常のまこちゃん」が常に入れ替わりで登場するという体験は初めてだったので、本当に貴重な体験でした。

ドラマのプログラムを担当するという立場で参加したこともあり、そちらでの責任を果たすことを優先したかったので、その他の場面で他のボランティアさんに随分と負担をかけたしまったのではないかと考えています。

ドラマプログラム以外の時間では、少し子どもたちと距離をとっていたことも（自分にそこまで引き受ける余裕がなかったのもあるのですが・・・）事実なので。

どの辺りまでの関わりを求められていたのか、また私が引き受けることができるのかを、事前にもう少ししっかり伝えておけばよかったと反省しています。

また、「リラックスし、自分たちが主役となれる時間を提供したい。楽しい時間を提供したい」というダダの思いを十分に聞いていたとはいえ、ドラマプログラムに何を期待して依

頼ってくださったのか（仲間作り？子どもたちの日ごろの思いをプロセスする場？表現体験？など）、実際には今ひとつ受け止めきれないままスタートしてしまったようにも思います。子どもたちからのニーズを模索しながら進めたことで（それはとても大切なことなのですが）、その辺りの私の不安感がドラマグループの中ではもしかしたら子どもたちにも伝わっていたのかなと、今後の課題として、自分自身の勉強にもなりました。

全体を通して、スタッフ間のコミュニケーションの大切さを改めて感じました。



信頼して任せてもらえたこと、相談してもらえたこと、機会をもらえたことなどなど感謝しています。もし次の機会があるなら、今回の経験から学んだことが本当にたくさんあるので、もう少し余裕を持って望めるのではないかと自分に期待しています（笑）。

全体のプログラム構成に関しても、今回の経験から学んだことがたくさんあります。経験は買ってでもしなさいとは本当です。

まだプロセス途中なので、少しずつ時間をかけて振り返りながら自分なりに消化していきたいと思います。

きょうだい児 インタビュー その I

2008 年 11 月 16 日 東武東上線川越にて

は：録音したものが壊れないようにするため？(ICレコーダーの Hold の話)

も：なんか違うと思う。・・・動かないようにするため。

き：ああ。ものとかで、ボタンが押されちゃうことってありそうですからね。

は：携帯でも、昔のはそうだった。

も：勝手にかけてないのにいつのまにか着信してたり。そういえば、ちょっと聞きたいと思ってたんだけど、

中学生に聞きたいと思ってたんだけど、いまどきの中学生って携帯もってるの？

き：結構もってるみたいですよ。

も：そうなんだ。

き：私は、ひとりで駅を越えることが多いんで買ってもらったんですが、他の人はやっぱりメールしたいからっていうことが多いみたいです。

も：普通の携帯？子ども用の携帯ってあるじゃない？ああいうのじゃなくって、ちゃんとした携帯？

き：クラスの人には知りませんが、うちは普通の携帯です。安心ナビがついてるけど。

も：ああ、そうなんだあ。

は：たしかに持ってるから。ダダのキャンプでも、今年の夏ははっきり「持ってこないでください」て言ったの。そうしたら、お母さんが「ええ～」て顔して。

も：無理でしょ。心配でしょ。

は：心配で…。お母さんはなんなんだろうね。心配で持たせるのかなあ。

き：やっぱり心配で持たせてると思います。

も：なんで、携帯持ってこないようにしてみたの？

は：携帯をもたなくても、遊べるかなってちょっと思ったの。一日携帯を使わないで遊ぶってことできるのかなと思って。

も：そういう…。いろいろから離れてね。

は：そうそう、いつもの生活から離れて。

き：なら、みんなから没収したら。ああ、でもこれはちょっと反感を得るか。

も：「じゃあ、今から携帯集めます」て。

き：響きが(?)悪いですね。

は：それも、学校の先生みただよね。「帰るときに返すから」とか言うの？

も：それ嫌ね。

……………(少し間)

は：どこから始めますか。今行きたいところはわかった。〇〇温泉だったかしら。

も：何したいか、あ、朝ぶろ入りたいんだ。

き：あ、でも、卯の花のあたりのお店も結構おもしろいのがあって、お店めぐり

もいいかなって。

は：卯の花。行ったことあるの？

き：はい、何度か。あ、でも、スキーもやってみたいです。私やったことない。

は：あ、そうなの。そうか、スキーやったことない人は、滑ってみたいかもね。

も：そうだね。スキー私も行こうかな(笑)。いきなりスキーになったら行くって。

は：スキーできる人結構いるのよ、ダダに。どっち？一枚板？二枚板？

も：スノーボードとスキーどっちがやってみたい？

き：ええと、二枚のほうで。

は：やった、正統派。

も：私も二枚しかやったことない。

は：私もなの。

き：一枚って結構難しいって聞いたんで。>>>は楽だって聞いたけど。

も：お尻ぶついたら痛そうね。

は：だって、お尻でとめるしかないでしょ。スノボは。

も：うまくなるまではね。

は：ひりひりしそうな気がする。スノボできる子っているのかな。ダダも。

は：スキー合宿ね、あれは一回やりたいなあ。

き：二泊三日で、二日目をスキーにするとか。一日目と三日目はバスにゆられて疲れるだろうから。

は：一日ね、スキーに。そうね、それもいいかも。

も：ここらへんの子ってスキー教室ないかな、みんな。

き：話は聞きません。

は：やっぱりさ、地元のスキー場にあるスキー教室が、募集をかけるのって、ネットとかじゃあんまりしないんだよね。だから、知り合いがやってるスキー教室にいかない？とかそんな感じで知っちゃうのかなあと思って。だから、地元も広告出さないと全然、わからないのよ。

も：学校でスキー教室あったよ。

は：だから、地元の人とは違うの。

も：地元でもないけど。

は：彼女の出身地はどこだと思いますか。

.....

は：年齢に、ていうか同世代の子と何か一緒にやると思うかしら？それともやっぱり、小学生もいたり高校生もいたりのほうが...

き：年齢を分けると、人数が少なくなるのでそれだけはやめてほしいです。

も：人数が多いほうがいい？何人ぐらいがちょうどいい？

き：それこそ今みたいに子どもが10人から20人。スタッフが5人から10人ぐらいが。

も：今そんな感じ？

は：今10人も集まってないから。8人ぐらいだね。どちらかっていうと、スタッフの

ほうが多くなっちゃうこともあるでしょ。

き:でも、それでも結構、それぐらいの人数のほうが。これ以上少なくなると、さびしんで。

も:人数多くてワイワイやったほうがいい…。

は:うん。バスをチャーターするとなおさらね。

き:ていうか、バスのレクもおもしろくなるし。やっぱり少人数でやるとおもしろくないから。

は:そうだね。がんばって集めようとは思うけど。やっぱり、たくさん的人数は確保しないとだめなのね

も:小学生とかが一緒になると、遊びたい内容とか違うかもしれないじゃない?

き:でも、それもそれに合わせるのも楽しいかもしれない。

も:そうかそうか、そうなんだ。

は:かえって年下の子の面倒っていうか。今年の夏がそうだったんだけど、年下の子が二人参加したらね。他の人たちは自分たちより年上なんだから、小学生の甘えは見逃してよってすごく言う子がいたの。小学生が言ったの。私たちの言うことぐらいは、お兄さんお姉さんなんだから、見逃すのが普通でしょって言ったのね。

き:ちょっと変過ぎる子だ(笑)。

は:そういうこととか言われた時とかって、どうする?

き:そんなに意思強くないんで。ああ、そうですかって。うのみにしちゃう、なんか。

は:そうするとさ、きのこのほうが我慢しないといけないことも出てくるじゃん。それでもいいの?

き:自分が我慢できれば。周りが我慢できればいいんだけど。自分はなんとかなるんで。

は:なんか、にんにん的にはそういうの嫌で。

も:我慢してもらうのが?

は:うん。そこまでお兄さんお姉さんぶらなくてもいいじゃない?小学生もいいこと言ってるんだからって思ったんだけど。我慢しちゃうのね。

き:そういう人が。。。そういう人はあまり来ないことを祈って。

も:仲良くできる子のほうがいいもんね。

き:何もなく終わることを祈って。

も:せっかく遊びに来たのにそんなに祈ってたらつまらない。もっと楽しくねえ。

は:つつがなく過ごせたらとか?

き:つつがなくというか、普通に遊ぶとしても、何も事件が起きないことを傍らで願いながら、自分的にはがんばって遊ぶ。

は:・・・そうねえ。そう思うこともあるけど、でも、なんかなあ。めいっぱい遊びたい時に、そういうちょっとした邪魔が入るのって、>>>。もうちょっと遊びたいのにさ、ここで我慢しなきゃいけないのは。

き: それもありますね。大変ですね、やっぱそういうのは。

は: だから、そういう時は思い切って、わけちゃうかなとか思ったんだけど、その場だけでも。

も: そういうことがあるとねえ。でも…、で、どうしたの？その時は？

は: その時はね、トランプをしてて。それで小学生がルールを間違えたかなんかでね。それで、お姉さんが、違うよ、君じゃないよって注意したら、「お兄さんお姉さんなんだから、それぐらい見逃してよ」て言うから。

き: それは単なる逆切れじゃないですか。

は: そう。だからね、説明しやすかったの。ルールはルールだから、そんなのお兄ちゃんお姉ちゃん関係ないって言って。その時は言えたけど。

は: うん。関係ないと思うけどね。そうそう、その子はね、大人に対してもそうだった。

き: 大人にたいしても？

は: 子供の夢を壊さないでくださいとか言って(笑)

き: 何かあったんですか？

は: いや、何にもないんだけど。たぶん、彼女の普通の生活で、きっとそういう会話はおうちで出てるのかなっていう自然に、子どもの夢を言ってるんですからってすぐ言うの。言い訳のような。

き: ちょっとつらいですね、そういうのは。

は: うん。ちょっとね、辛いんだけど。そうか、だから、こっちもね、そう言われた時は「あなたの夢は何ですか」とか言って(笑)、マジに目見て言ってみたの。

も: 夢語ってくれた？

は: 全然。

き: それは語らないと思います。

は: そうですか。

も: なんか、あなたのほうが大人ですね。

き: なんか、昔から兄のハイキングやらでひとと関わることが多かったんで。

は: でもそうね、まんべんなくチームとか分ければ、あんまり、年齢は気にせずみんなで遊べたほうがいいってことだよ。そうか。じゃあ、たとえば二番に進んで、カヌーをすとかさ、クラフト作りをすとかいって、小さい子ができないことをちょっと手伝ってあげようとかそういうことも出てきたりしても手伝っちゃう？

き: はい。そういうのは。子どもをかまうこと自体はすきなんで。下がいないんで。

は: そうか。下がいないとそうなのか。

き: 下はいないし。兄とは微妙に噛み合っていないで。

も: 妹や弟みたいな子がいたら、それはそれで楽しい？

き: はい。

は: ほかに？

き: あ、でも、やるとしたら、外で遊ぶのと料理やクラフトみたいに中で遊ぶのと半々にしてほしいです。

は：そうか。お料理も楽しい？

き：不器用だけど、こういうの結構好きなんです。

は：不器用もなにもないよ。料理は。食べるためにやらなきゃ。

き：食べるためにやるから、そういうの関係なくてやるのは好きなんです。

は：そうか。たとえば、夏だったら、どういうプログラムだったらいいと思う？二泊三日を過ごすにあたって。

き：ええと、夏だったら、川遊びとか、それと、スイカ割りとか。あとは中でやるのだと・・・うーん、夏だとやっぱり、冷たいものをかき氷とか作って、みんなでわいわい言いながら食べながら話したほうが楽しいと思います。スタッフの誰かにかき氷機持ってきてもらって、氷をいくつかクーラーボックスの中に用意して、一日目のうちにみんなでガリガリやりながら、夕方、お夕食食べ終わった後デザートということで、みんなで窓際あたりで。

は：なんで窓際？

き：雰囲気が出るかなって。風鈴があったら最高です。

は：(笑)わかりました。雰囲気ですね。なにか他に、用意したほうがいいものがありますか？

き：いいえ。できればって感じなんで別に用意しなくていいです。

は：雰囲気って言ったら、そのあとお化け大会だけど、よろしいんでしょうか。

き：お化け大会は、やりたい人だけがやってください。私苦手なんです。私怖い話が苦手なんです、たぶん、にがてな子と一緒に、リビングあたりで絵を描いています。

は：あなたもにがてなの。にんにんも怖い話苦手なんだけど。

も：私もだめなのよ。

き：じゃあ、苦手な人が多いなら、そのあとはみんなテレビ見ながら、何かしてれば。

は：トランプでもしようかなあ。

き：ああ、いいですねえ、トランプ。

も：結構夜のおしゃべりとか盛り上がるの？

き：うーん、人によってやる人とやらない人がいるんで。人によってはリーダー格の人が「おーい、みんなトランプやろうぜ、やる人もいるし、なんとなく始まることもあるし、始まらなくてみんな寝ることもあう感じで

は：リーダー的な人がいたときって、やっぱりそれに自然と従っちゃうほうが普通なのかな。

き：従う人もいるし、そういう人ってあんまり嫌ってる人がいないんで。私の知ってる人は。

も：これはさ、お泊り会のメニューって、めいいっぱい遊ぶことに集中したい？それとも、・・・？

は：他に何かやりたいっていうことも意味してるけど、この中には上げてない。

き：あの、どこか見学するとかそういうのですか？

は：うん。近いところへ見学したりとか。

き：でも、どうせなら遊びたいですね。

は：遊びたい。あの、社会科見学見たいな感じの。

き：社会科見学は学校でできるんで。

も：観光みたいな感じは？日光東照宮の観光みたいな。

き：ああ。観光、そういうのはいいですね。

は：日光が前提だし(笑)。

き：でも、近くの川とか見に行ったりおもしろそうですね。遊びの関係って言う感じで、お散歩みたいな。

は：そうだよ。それでさ話し戻るけど、二泊三日でお友達になった中で、やっぱりさ、リーダーって絶対出てきちゃうじゃない。いままではいなかった？リーダーっていうか、まとまった中で、一人、なんていうんだろ・・・

き：一人だけまとめるような人はいなかったですね。

は：しきりやさんみたいな、いなかった？

き：しきりやさんはいなくて、みんなで二、三人で意見出し合って、「次はこうしようか、じゃあ、トランプでもしようか、暇だねえ、お風呂入るか」てそんな感じでした。

は：そういう感じだったっけ。そうだったらいいいんだけど、仕切り屋さんとかが一人出てきたときとかは？

も：仕切り屋さん出てきたことあるの？

き：仕切りさんは別にいなくても、楽しくできます。

は：できるよね。そう、できるのよ。大丈夫なのよ。三番はとんで、今まで参加してくれてたキャンプで、もうちょっとこうしたほうがいいんじゃないかなとか、改善したほうがいいんじゃないかなというようなことはありましたか。

き：結構えらんだ場所が、結構良かったんで。第一回目のキャンプ場とか。

は：あ、おもしろかったね。あの、学校でしょ。

き：学校で、かえるを拾って、>>>につめて、そのあと、結局逃がしたかえるは生きていだろう。ああ、あとは、月を見ましたからね。純粹に空を見たいから、先生の話にはあんまり興味もってないかもしれないけど。二回目の冬のやつとか。ああいうところみたいに、すぐ近くにホテルみたいにだったり、すぐ近くにまた泊まる場所があるとか、そういうところがないところが好きでした。

は：ちょっと離れてる。

き：>>>みたいにちょっと離れてて、少し前のところに雪が積もってるみたいな。少しゆとりをもったところが、なんか・・・

は：じゃあ、あんまりおなじ場所に毎回行くっていうよりは、毎回違う場所に行ったりするほうが、みんなやってみたいっていうことかしらね。同じ場所でも・・・

き：同じ場所でも新しい発見があるかもしれない。

は：そうね、遊び方によってもね。違うかもしれない。

は：かえって、どうだろ、今度の二泊三日は、何月何日に行きます。その二泊三日をどう過ごしたいか、参加者で考えてくださいって言って、ふられたらきつい？

き：さすがに、二泊三日はきついですね。

は：きつい？そうすると事前に何回かあって、みんなでお話しながら。

き：ああ、それならいいけど、着いてそのまま、自分たちで考えてみてくださいっていうのは困るけど、さすがにみんなで話し合っただけなら、>>しなくてよさそうですね。

も：でも、集まる時間がないでしょ。

き：集まる時間がなかったら、にんにんのほうにメールを送るとか手紙を送るとかで。

は：うんうん。みんな携帯メールするんだったらね、それもなんだけど。

き：私はお母さんのほうに送ってください。携帯自体あんまり触れないんで。

は：うん。じゃあ、そうしようね。・・・そうか、みんなでね、考えてもらうのも一つキャンプも楽しいのかなと思ったの。でも、あんまりさ、かえって負担になっちゃまずいかなと思ってね。忙しすぎて。

き：忙しかったら来れないは来れないで、いてもらえることを信じて。

は：あ～。

き：「あ、今日学校見学があるので、行きません」とか、そういうのもあるだろうし。

.....

き：さっき、もう一回繰り返すことにはなりますが、あの小6の女の子みたいに、文句を言うてくる子もいるかもしれませんしね。「私、>>>>>>、中にやるものばっかりにしてください」て。そういう要求が出てくるかもしれない。

は：うん。でもね、そういう意見がばらばら出てきたのを取りまとめるのは、たぶん、スタッフのお仕事なんだと思うんです。

き：できるだけそういうのをかなえてあげれば、あっちも何も言わないだろうし。

は：そうだよ。そう思う。で、参加する人たちがやりたいことが、何か一つでも入っていれば、また、違うのかなとも思うし。まあ、じゃあ、みんなで作らしましょうプログラムもこれから考えてみます。メールでも、連絡しましょ。

も：どういう場所かっていう説明をしないと、考えられないよね。

き：どういう場所で、近くでなになにがあって、川があって、少し遠くに行けば山もある、というようなことまで下調べいかないと始まりませんからね。

は：その下調べっていうのは、大人が見て、口で説明するだけでいいのかしら。それとも、自分たちでももう一回・・・も：もうその段階でキャンプじゃん。

き：それはちょっと、それはちょっと。

も：二回キャンプですか。

は：いや、まあ、日帰りですけどね。

き：うちのお母さんの入っているお母さんグループだと、山へ行ったり、博物館

へ行ったり、月ごとに担当のお母さんが決まっいて、それにみんなが従うって感じなんで。代表者がすべて、見てきて、どこどこでトイレ休憩とか、どこどこで昼食食べるとか、考えるんで、たぶん、いろいろと>>>そこから考えていくほうがいいと思います。

は：そこは説明ということで。

き：がんばって説明していただきます。

は：はい、がんばって説明させていただきます。あとはあらたにやってみたいこと。

き：やってみたいこと…。

は：他にも何かやってみたいっていうようなことありますか。今までに出てきたこと以外に。

き：以外にやってみたいこと…。うーん、あ、でも、他のこういう団体の話を聞いてみるのもちょっと興味が。障害をもったきょうだいのための何かのグループの話を聞くのもおもしろいかもしれません。

は：あー、そうね。なんかだんだん、一日目の夜よりも、二日目のよるって、みんな打ち解けてくると、話しやすくなってるよね。

き：あんまり覚えてないんですが、楽しかったのは事実です。やっぱ。なんだかんだ、みんな名前も覚えてきて、性格も分るようになってきて。表面上の性格ぐらいはわかるようになってきて。結構、楽しかったと思います。

は：ああいう、あそこでできたお友達と、きょうだいの話とかも出たの？うちのお兄ちゃんはねえとか、妹はねえとか。

き：たしか、少し聞いたような、聞いてなかったような。覚えてないけど、でも、結構>>>と思います。最近、「けんかして兄の話なんて聞きたくない」っていう人もいるだろうし。

は：そうか。でも、きつとさ、聞きたくないオーラを出してる子が一人いたら、言わないとか、空気読んじゃうんだろうね。

き：でも、たぶん、聞かないなら聞かないで、周りが他の話題探すよ的な人もいるかもしれない。

も：もし、そういう自分のきょうだいの話とかしたい子が、他にいたとしたら、聞いてあげたり、自分の話とかしたり、する気になると思う？

き：うーん、話したくなければ話さなくていいけど、気になるのは気になります。

も：気になる。じゃあ、話している子がいれば、やっぱり聞いたりする？

き：はい。おもしろくなくても、聞くこと自体は無駄じゃないから。

は：でも、たまには、そうするとね、思ったのは、キャンプとかだと、目一杯遊ぶっていうことになっちゃうでしょ。それとは別に、やっぱり人の話を聞いてみたいっていう時間は、別に設けたほうがいいのかなんて思ったりしたの、最近。

き：キャンプと一体で、キャンプの途中に聞くとか、そういうのでなければ、まあ、嫌な子は参加しないし、そういうのはいいかもしれない。違うので、一回話を聞いたことがあったんで。

も：たとえば、夕飯の前とか後に、「今お遊びはちょっとやめて、みなさん、自分

のことをお話しませんか」みたいな時間とか、あったとしたら、まあ、嫌な子は来なくていいかもしれないけど、もし、あったら、行って、お話ししたり聞いたりする？

き：聞きに行くけど、やっぱり、そういうのって、行かない子もかなり暇になるんで、機会を分けたほうがいいかなって思います。

も：「行かない」て言う子結構いるかな？

き：結構、自分の話をするのは、ちょっと今は嫌とかそういう子はいるかもしれないし。機会を分けたほうが平和に落ち着くかなと。

も：嫌な子はね、行かなくていいのかな、私、とか。

き：そういうことでストレス感じるかもしれないし、あんまり気が乗らなかったり、つまらなくなったりするかもしれないし。

も：そうだね。気を使っちゃったらかわいそうだね。

は：一番空気読む世代ね。中学生は。

き：うちのクラスもそうなんですけど、最近のクラスの子は、男子でも女子でも、言える子と言えない子がいるみたいだから。

は：たしかに、そうねえ。そういうのと言えない子っていうのは、どういうところで言ってるのかなあ。

き：やっぱり、>>だとかそういう子がいると、話したりするんだけど、なんだか、一人一人そういう子がいなくなると、なんだか、話があんまりすすめられないっていう感じだったと記憶に残ってます。

は：で、そのうちに、そういうリーダーが、いなくて、言えないことがたまってくると、やっぱりどこかで言いたいっていうふうになる？

き：さあ？そこまでは知らないんですけど、やっぱり周りが空気読もうとしていることを察する子がいると、やっぱり、こっちも空気読んじゃって、話せなくなるんです。

も：そんなにみんな読んでるかあ。

き：結構、部活とかそこまで親しくなってくると、普通に言えるけど、そうじゃないと、言えないっていう子は少し目立ちます。同じ吹奏楽のこと親しく話しているのは見るけど、なんか、他の子になると、あんまり話しないなこの子、みたいな。外から見るとたまにわかります。

も：じゃあ、キャンプとは別に、どこかで、都内で、そういうお話する会をやりましょうって呼びかけたら、参加してくれる？

き：しますよ。なんか、こういう話は、いい話でも悪い話でも、聞くのは好きなんです。

は：話したいなっていうことがきつとあれば、自然と出てくるような場をこちらが提供すればいいのよね。

き：そういうほうが、>>>>。やりたくない子はやりたくない子で分けておいたほうが。何か、他の子の反感をかって>>>というようなこともないだろうし。やりたい人はやりたい人で勝手にやっていれば、口出ししてこないだろうし。

も：もしやるとしたら、どういう場所かねえ？

き: 都心に一人で…。そういうのって、親が心配するかしらないかが問題になってくるんで、結構、心配してる親もいるかもしれないし、そういうのは平気だから預けておくって親もいるだろうし。うーん、駅から近いとか。親でも場所を知っているとか。そういうのがあると安心だと思います。

も: 「池袋とか新宿でやります」て言われたら、ひとりで来れる？

き: はい。池袋はひとりで一回行ったことがあるんで。

も: 新宿とかはしんぱいだよね。

も: 高田馬場とか、ちょっと引っこんでたほうが。

は: どこかでみんなで落ち合って、一緒に行くっていうんだったらいいよね。

.....

も: 話それちゃってもいい？どんな音楽を聴くんですか。

き: すみません、うち、昔っから、兄が、学校じたい遠かったりで、ひとりでアニメ見ることが多かったんで、アニメの歌をよく聞くんです。

も: よく見るアニメって何ですか？

き: やっぱり、どっちかっていうと、子どもアニメのほうが。なんか、いろいろと、ネタを入れ込んでいて、見てて楽しいです。たとえば、特撮のとか。>>>>というのは、結構昔から見えていたんで。

も: そういうのを見るんだ。

は: プリキュアかと思った。

き: ああ、プリキュア系列、結構見えていたんで。

も: プリキュアってアニメ？

は: あなたでしたか？おうちでゲームしてるとお兄ちゃんを取り合いになって、どうのこうのって。前、シブシブで話してたの。

き: 昔の話ですね。しばらくすると、お兄ちゃんが、昔からよく癩癩を起すんで、部屋をはなされて、ゲームをする部屋がうちの部屋になったんで。そのまま、ゲームキューブはうちが>>して、お兄ちゃんはゲームキューブ使わずに、で、DSはお互いもってるんですけど、DS2は、使わないで、お兄ちゃんはだいたいDSしてます。

は: あとは最後は五番かな。もやもやしてたことってありますか。

き: もとから気分が変わるのが早いので、もやもやしてることも自体長く続かないんですよ。どっちかっていうと、どんな悩みも、少しアニメ見てたら、アニメに集中したら、すぐにとんで行くっていうか。何に悩んでたんだっけ、みたいな。

は: そうか。そうするとさ、たとえば今年の夏なんだけど、もやもやしてる人がひとり参加してたりすると、その子がもやもやがとれない、もやもやがとれないって言ったら、どんなもやもや？とかって話しかけてあげたりするほう？

き: するほうですね。話しかけますね。どんな話でも、人の話を聞くのはおもしろいんで。

き: さすがに、周りにはいないんですけど、反抗期の子は、ここまで来ると少なく

なってくるんですけど。

も：反抗期って中学生だよね。

き：もともとふざけてる子ぐらいいはいるけど。反抗期の子は見ないですね、部活とかでも。

は：あ、そう。

き：うちの部はわりと、何もなくて、ゆるーくゆるーく動いてる部なんですけど。結構、何もありません。

家でそうなる子のほうが多いんだろうなと思います。やっぱり、学校よりかは家のほうがそうなりやすいと思います。

は：特にね、お母さんの顔見ただけでね、そうなっちゃう子も。

も：イライラするんだよ。お母さんの顔見ただけで。

き：そうなんですか。

も：ない？反抗する気持ちにならない？

き：私は、わりと母のほうが誰よりも母のほうが、アニメの意見が合うとかで、家族と、お父さんとお母さんの

ほうが、どこの誰よりも私と意見が合うんで。

も：仲がいいんだね。

き：仲はいいけど、自分が気に入らないことをされたら、半分ぐらい叱ります。

も：お父さんとお母さんとけんかするのはどんなとき？

き：たまに噛み合わなくて喧嘩するぐらいで。でも、>>も出ずに、あんまり長引かずに、なんだか終わる、

みたいな。お父さんとお母さんも言いあうだけ言い合って、終わる感じがします。いつも終わるんで。結構、

お兄ちゃんが癩癩起こして、二人ともうるさいのが嫌いなんで、そうやっていらいらしていない限りは、

普通に、何にも起きずに終わります。

は：みんな切り替えが上手なのかなあ。家族みんな。

き：結構、自分では珍しい家庭だなあって。うちんちは、結構、親子で、アニメ見るなとかそういうの

言わないし。普通にお父さんがDVD借りてくれるんで、アニメでも何でも。DVDやCDぐらい借りてくれる

うちなんで。

は：ああ、そうなのかなあ。じゃあ、いい、というか、何でもお父さんお母さんに相談しちゃうと、いいなあっていう

ものが、気分的にあるんだ。

き：相談すること自体、気分が切り替わってるせいで、忘れてたりどうでもよくなったりしてるんですけど。

なんかもう、自分はよくへまするんで、そういうへました原因を考えてるうちに、よ

くわかるようになったんで。

は：原因までを考えてるんだ。

き：でも、アニメとか見ると自然に吹っ飛ぶんですよ。アニメみたり、寝たりするとそれだけで何でも

どうでもよくなって。>>>忘れかけたりすることなんて、よくあることです。提出物を忘れるのは問題だけど。

は：ええ、でも、すごいなあ。それ。そうかと言ってさ、アニメに傾倒してるわけではないんでしょ。

その主人公に自分を置き換えちゃうとかそういうんじゃないんでしょ。

き：そんなんじゃないんです。ただ見てるだけで、いろいろと吹っ飛ぶだけで。

は：そうなんだよね。うらやましいんですけど。

き：でも、やっぱり、悩む時は悩むんで、学校の直前に行くまで

どうしようどうしようって悩みこむことはあるけど、学校行ってる途中で忘れたりどうでもよくなってくる。

は：忘れちゃったら、また突然他の時に出てきたりする？

き：いえ、ただ、あのときこれ言うんじゃないかって。ただ単に相手に対する疑心暗鬼っぽいものなんで。

も：なんか、使う言葉が大人っぽいよね(笑)。きのこちゃんね。

き：そうですか。

も：うん。お友達もそうなのかなあ。

き：さあ、でも、部活で話す男子とか男友達とかは、結構、うちよりも大人な考えをもってる、大人というか

シビアでもある考え持ってる子がいるんで。

は：ふーん、吹奏楽部だけ。

き：私は吹奏楽ではなくて、美術部です。

も：吹奏楽部の子とわりと仲がいいの？

き：というよりは、吹奏楽部の子が、うちのクラスにいるんで。たまに見ると、そういう子がいるなという

感じで。

は：絵描くの好きな子多いんだよね。ダダキャンプ参加した子でも。みんな絵描いてるよね。

き：やっぱり絵描くと落ち着くというか。うちなんていつも絵描いてるせいで、丸とか直線とか書いてると、

>>>書いてることがあるんで、そのせいで先生に指されたり。

は：ほんとう？私もよくやったよ。試験の解答用紙のどこにも、余計な絵を描いて。

き：ああ、なんか書きたくなります。やっぱりいつも絵を描いているせいで「シャツシャ」て。

は：書かれてるの。

き:なんか、テストとかで集中力が切れると「ヒャッヒャッヒャッヒャッヒャ」てやりたくなります。

は:そうなんだ。絵描く子多い。なごみちゃんも絵すきだもんね、書くのね。

き:そういえば、絵描くの好きだって言ってまして。同じ美術部だったし。

は:え、なごみちゃんて今中三?ため?

き:はい。私と同じで、ついでに言うと、修学旅行のときに会ったのもなごみちゃんと…。

は:そうなんだあ。

き:なごみちゃんと、お母さんの関係で知り合った男の子二人だったんで。

は:あ、そうなんだ。え、でも中学は違うの?

き:全員違って、全員中学校が違うけど、川越市なんです。

は:川越市なんだ。その時のなごみちゃんの様子は全然反抗期じゃない感じ?

き:その時はまだ反抗期じゃなかったですよ。普通にあっちから話しかけてきたし。「ああ、きのこだあ」

て。

は:今回のなつキャンプは前参加した子がみんな来なくて。

き:新しい子ばかりだったんですか。

は:そうなの。Aちゃんとあと、Sちゃん覚えてる?

き:さよちゃんて、あの妹っぽい子を連れていた姉のほう?は:うん。姉のほう、姉のほう。あの二人だけだったの。あとみんな新しい子だったの。

き:それってちょっと精神的につらいですよ。もやもやしてるうちに、上に知ってる子は一人だけに。

は:それで、あったかも。それで、大人もにんにんしかいなくて。あとみんな…。

き:あいあいは?

は:今回は来なくて、別のお姉さんが来てくれて。

き:今年の夏って、劇を作ったんですよね。それで、共同作業っていうのはちょっとつらいですね。

は:やっぱりつらかったかなあ、じゃあ。本当に顔知ってる人いなくて。

き:顔知ってる人のほうがそういうのはやりやすいし、楽しいと思ったんで。

は:ああ、そうかあ。

き:行きたかったなあ。高校受験じゃなきゃ。

は:そうなんだ。だから、ずっともやもやしてる、もやもやしてるっていうのは言ってた。

き:なんか、話せそうで話せないし。一人だけだから。

は:そうだよ。それもあったんだ。だから、たぶんね、そっちのもやもやのような気はした。初回から

知ってる子がいないっていうのは、事前説明会的时候に分って。それからずっとなんかもやもやしてるっていうか。

き：障害を知ってる子はいなかったんですか。

は：いや、それは、ま、初めでは子どもたちではいわないでしょ。紹介し合いに。で、キャンプ場に着いてから、

なんか言ってたよ。きょうだいの話は。だから、え？今、そういう質問？障害の時もそのとき言ってたよ。

き：結構>>だったんですか。

は：うん。でもね、それで終わっちゃったっていうか、すごくさっさと「うちの弟は〇〇なの」「あ、うちも」という感じ。

き：それはちょっと、さびしいというかですね、やっぱり、ちょっと手紙では、>>>そんなこと言ってたような気がするんで。

も：なんて？

き：中学入ってたような。たしか、今小6か中学生かどっちかだと思ってたんで。

は：中学生、中学生。

き：中学生。それだと結構つらいですね。上下関係も部活で学んでくる頃だから。

は：そうだよな。中二だもん。それでね、一番年上になっちゃったの。今回は。

き：私となごみちゃんがいなかったから。

は：なおさらつらかったかも。それで、「お姉さんなんだから」てすぐ下に言われてたし。「あんたたちは

お姉さんなんだから」て言われてたし。

き：あの子が背中を押しちゃったわけですか、もやもやの。

は：たぶんね、だから。キャンプの中でもややもや感が出てしまったんだと思う。

き：ああ、ちょっとつらいキャンプでしたね。

は：はい、すみません。

き：みなさんのせいではありません。状況が悪かっただけです。

は：言ってもらってよかったです。

も：前の年にお友達になったら、また次の年に会いたいなと思って、行くのかな、やっぱりね？

は：そういう子もいるよね、きっとね、会いたいなって。

き：いるだろうと思いますね。

は：きのこちゃんの場合は、まるっきり新しい子がいても、別に大丈夫？

き：うん、結構、新しい子っていうより私は、お母さんの関係で、>>クラブっていう、東京国際大学の

お兄さんお姉さんに一対一で、小6までは一対一でついてもらってたんで、人が移り変わることなんて、

気にしてなかったんで。四月になると、人は卒業したりで、いなくなるし。

は：そうか、一緒に遊んでくれるお兄さんお姉さんて一年は同じ人たちのの？

毎回違うの？

き：毎回というか、結構、人によっても、バイトもあるし、卒論仕上げないといけないから三年生から

あんまり来ない人とか。結構人は入れ替わります。

も：何して遊ぶの？どこへ連れて行ってくれるの？

は：うちが行っているのは、ウォーター>>クラブっていう、東京国際大学のお兄さんたちと、今日のは、

普通晴れたら、山に登って、ちょっと障害っぽいのを持ってる子たちは、大人が、ボランティアさんが、

男女一人ずつ、ひとりの子について、親はひとりで、親は親で団結して話して。うちみたいな、おまけで

きている普通の子は、普通のこだったりきょうだいは、>>の人が、小6まで、ひとりついて、一緒に山

上ったり、雨が降ったら、博物館行ったりするんです。

は：普通の子たちには一対一ではつかないの、お兄さんお姉さんは？

き：中学生になったら、普通の子には付きません。でも、うちのところには、さっき言ったように修学旅行で

会う男の子がいるんで。なごみちゃんも反抗期入る前は来てたし。なので、同学年中学生四人で、はちやめちゃんに

走ってました。「中学生四人走らない！」で。母親に謹慎(?)くらうこともありました。

は：ちょっとは大人になりなさいって言われるのかしら。

き：ちょっと大人になりなさい、走らない、危ないよ、みたいな。

は：そうか、そういうお友達がいるのか。

き：さっき言った中の一人なんて、話によると、生まれたころから母親に連れられて山登らされてたって

話なんで。なんか、母親が、主要メンバーの一人だったんで、まだ、歩けないころからおぶられて山を上っていた

っていう話を聞きました。たぶん、日焼け止めとか塗らされて行ったんだと思うんだけど、小さいころから

山に登らされていたっていう話を聞いたんだ。

は：じゃあ、大きくなったら山登りになるかなあ、その子。男の子？

き：はい、同学年です。

は：そうか。男の子たちは反抗期出てないの？そのお友達は。

き：その子はわりと賢いんで。かなり賢いんで。反抗期は見受けられてないです。

き・は：(笑)

も：お友達にはなかなか分からないと思います。

は：ああ、そういうもんですかね。やっぱり親に対してですかね。

き：親のほうも親しいんですけど、そういう話も母から聞かないんで。

は：そういうお友達いるのいいですね。

き：やっぱり話せるのは、>>>。

は：そうだよ、なごみちゃんも早く復活するといいね。

き：はい、やっぱり、>>に入っているほうが親しく話せる子が増えていいと思います。

は：ちょっとね、にんにんたちに対しては、やっぱり大人のせいか、あんまりもう、話したくないみたい。

きのこちゃんだと…。

き：うちはただ、敬語の癖をつけようとしているというか、なんとなく、敬語にしておいたほうがいいんじゃないかと

気分的に思ってるだけなんで。

は：敬語だよ、ですます調だよ。

き：ただ、気分的に敬語にしているというか、敬語にしておきたいというだけなんで。

は：どうぞ、お好きなようにお使いください。(笑)

き：すみません。やっぱり、うちは昔から大学生のお兄さんお姉さんたちと話してきたせいか、別に遠慮はあんまり

しないです。そういう、感じで親しくしてもらってる人たちには遠慮はしてないつもりです。

は：別に、遠慮も何もないんですが(笑)。聞きたいこととか話したいことがあったときに、話せる人が

少しでも多いといいなとは思っていますので。なんでも話したいことがあったら、にんにんとか、もっちいでも、

話相手にはなれば、言ってください(笑)。ただね、ダダのキャンプに関しては、どういうことをしたら

もっと、心から楽しんで遊べるかなあって、ちょっと、毎日毎日考えているんで。

き：やっぱり、どうなのが一番いいのかって、人それぞれだから、人数少ないうちに見つけたほうがいいと思いますよ。

人数が少ないうちに統一して楽しめるものを考えておいたほうがいいかもしれない。

は：人数が少ないうちに…。

も：きのこちゃん、さ、何で最初に、ダダのキャンプに参加症とってくれたの？

き：やっぱり、みんなで遊ぶの自体が好きなので。

も：障害のある子のきょうだいが集まるのは、何でとか思った？

き：思いませんでした。別にそういうのは、お母さんが勝手に見つけてきて、「行かないか」的なことを

聞いてくるんで。別に最近は何とも思っていないんで。

も：そういうのってよくあるのかな。このダダだけじゃなくても、障害のある子のき

ようだから集まりませんか
ていうの。

き:しゅぶ以外にも、さっき言った、ハイキングやそれ関連で、一応、プロ
の人が、バンド作って、子ども
作ってダンスを教えるっていうのが、週に一回、昨日、第三土曜にやって
るんで。

も:それは、きょうだいの子の集まりなの？

き:きょうだいじゃありません。関係ないんです。結構関係なくて、ある子もない
子も、いっしょくたに集まって、
それこそちっちゃいこは、このぐらいの子まで。このぐらいの子まで、いろいろな人
なんで。

は:結構、きのこちゃん、外にお友達多いよね。どのぐらい、割合的には？学
校のお友達と遊ぶほうが多い？

き:やっぱり、そっちのほうの友達のほうが多いし、楽しい。

は:でもいた。ダダを申し込むこの中にも、学校以外のお友達を作りたいからっ
ていう子が結構多くて。

き:そういう気持ちも悪くないですよ。

は:だからたくさん集めなくちゃなっっていつも思うんだけど、その割にはあんまり
たくさんじゃないじゃない、
いつも参加者が。

き:別にそういうのは考えたら負けなんで。

は:ああ、負けですか、はい(笑)。

き:だって、友達作ろうと考えて、接するほうが大変なので、何も考えずに、やっ
てると大変だと思います。

友達をダダで作ろうとしていることがだめって言ってるわけじゃないんです。自然
にやれば、たぶん、

友達もできると思うので。噛み合わないことはあんまりないだろうし。

は:そうね、それはダダでも噛み合わない子は噛み合わないもんね。きつとね。

き:噛み合わないってあきらめてくれればいいし。

は:大人なんですよ、本当に。(笑)

も:小学生はあきらめてくれないかもしれないね。

き:その子はちょっと、話聞いているだけで、あきらめてくれないだろうけど。

は:たまたまその子がそうなのか、小学生がどうなのかっていうのが。

も:その子がそうなんだよ。

き:たぶん、小学生がそうとか、そういうことではないと思います。

は:やっぱり、とにかく楽しく過ごせる場所を提供するっていうのが、一番なのかな、
ダダのキャンプ。

き:そうですね。友達なんて、ほっとけばできるんだし、ダダなんだから。

は:たまたまほっといたら、全然できない子も中には参加してくるかもしれないけ

どね。でもそういう子は、

他の子たちが、結構うまく声かけしてくれたりして、今までは来ていたんですよ。

き：そういう子は、レクのうちになんか話すようになっていたような。気づくと話すようになってたかもしれないし。

気づくとあっちから話しかけてきた的なこともあるだろうし。

は：そうだよな。そういうことだよなあ。ああ、あとさ、たとえば、病気をもってる友達のきょうだいの話

聞きたいとして、どういう病気をもってる人のきょうだい話を聞きたい？

き：私のお兄ちゃん自閉症なので、ダウン症について、少し知りたい。結構、ダウン症の人の話は聞けないんです。

なんか、ダウン症の子は見たことあるけど、あまり話は聞けないんで。

は：学校にもお友達いない？ダウン症のきょうだいもってるお友達。

き：障害をもってる子はいるけど、いまいち何の障害なのか、いまいち、聞けないんで。

は：あ、そう。

も：他の障害のこともいろいろ聞いてみたい？ダウン症もそうだけど。ダウン症じゃなくてもいろいろあるよね。

き：やっぱり気になりますね。

は：ええと、どういうことを聞いてみたい？

き：生活で困ってる点とか、>>>です。どういうところに困ってるとか、どういふふうにどういふ生活に

困ってるとか。

は：私も聞いてみたい。

も：それはその障害や病気のある子の困ってる子と？きょうだいの困ってること？

き：きょうだいでもいいですし。うちの知っているダウン症の子はあまり話せないんで。別に話せなければ

別の子の、きょうだいでもいいし。

は：わかりました。そんな感じでしょうか。

も：そうですねえ。

は：今きのこのお兄ちゃんて何年生だっけ？

き：今一つ年上の高一です。

も：年子なんだ。

き：年子といっても、私が早生まれでおにいちゃんが遅生まれなんで、二歳差があるんです。

きょうだい児インタビュー そのⅡ

2008年12月14日(日) 中学2年生二人組 (Afternoon Teaにて)

✓ これまでに3回のキャンプと1回のBBQをしたけど、覚えている？何をしたっけ？

A: 1回目はバスの移動と黒板に落書きしたこと。2回目はゆき合戦したり、トランプ

B: おやき作りが楽しかった

✓ 一番印象深いキャンプは？

B: ふゆの雪合戦が楽しかった。最近は雪がふらないからね。昔はよくしたけど。

A: 全部、思い出。決められない。きのこちゃんがいたことも。今年では会えなかったけど。春休みに期待してる。来年はわたしが受験。今度は皆でボウリングやスケートをやりたい。

✓ 別の友達と連絡をとってる？

A: とっていない。BBQで会ったきり。最近はCやDにも会っていないな。キャンプ以外で会わないな。

B: Aちゃんと知り合えたことかな？それまでは親同士が知り合いだったただけだから。

✓ ダダのキャンプは人数が少ないけど、どう思う？

B: 減少しているよね。こじんまりしているのもいい。

A: 人数が多いほうが楽しいかも。夏はBちゃん以外知らなかった。Bちゃんと同じ年の子を誘ってみたけど、知らない子とお泊りするの嫌だと断られた。私は知り合いがいない所でも平気だけど。

B: 1日目はちょっと不安だった。2日目から大丈夫に。楽しめばいいやと気持ちに切り替えた。

✓ 夏キャンプ2008のチラシを見せて、どの気持ちで参加してくれたの？

A: 役を演じてみたかったから。キャンプ中はもやもやしていた。

✓ 何にもやもやしていたの？

A: よくわからないけど、あいあいやながよっしいやよっしーに会えなかったし、最終的に楽しかったけど。

B: 夏休みの思い出づくり。Dさんに注目した。化粧品？

A: 薪割も楽しかった。師匠にほめられたし。お料理隊長だったし。

✓ Aちゃんはちゃんと料理隊長を覚えてたよね。仕事が終わった後、一番に調理場に来てくれたよね。

A：うん。小六チームも火の担当で頑張ってたね。あの子達は頭が良い。Xちゃんは漢検3級だし、Yちゃんは英検5級だし。

B：私は火が好きでないから。理科の授業で先生からも注意されたし。

✓ そういえば、Dさんいじめ（笑）あったね？

A：Zもね。T君とDさんをくつつけて。Dさんのこと大好きだから、皆おもちゃにしたんです。T君の口笛もよかった。もののけ。1日目の晩は2階で大富豪をT君としてたから、何時に寝たか覚えていない。2日目の晩はおやつタイムがあったから眠くなくて。

✓ 夜遅く、女の子達がぞろぞろ出てきたよね。いろいろわめいていたでしょ。あれ、なんで？

A：わからない。

B：バス運転手さんの怖い話もおもしろかった。

✓ 3年前、ダダに始めて参加したのは何がきっかけ？

A：ポストにちらしが入ってた。行きたいと思って、お母さんに言った。

B：お母さんからちらしを見せられて、何となくおもしろそうで行きたいと言った。

✓ それまでは、きょうだいで集まりましょうということにはなかったの？

A：なかった。何それって感じ。でも、どんなものかなと思った。（ダダのキャンプは）きょうだいの枠をはずして、知ったお友達も連れて行きたい。知らない人が増えて、知っている子が減るから。

✓ きょうだいの話を友達としたい？

B：学校では遠巻きの感じ。ダダの話をしてても聞いたのが悪かったみたいな空気があって。だから学校の友達も連れていきたい。

A：学校ではきょうだいの話はしない。

✓ 来年はしゃべり場を計画していて、学校のことや家のことを皆でしゃべるといふのを考えているんだけど。

B：遊びで絆を深めてから、遊びの合間にするのがいい。

はる体験じゃー2009

by のびのびヒーローズ・ダダ <http://dada2006.web.fc2.com/>

病気や障害をもつ子どものきょうだいを対象に、宿泊ワークショップを開催！

春



楽

はる体験じゃー：平成21年3月14日(土)～15日(日)

場所：足柄ふれあいの村 <http://www.hureai.or.jp/ashigara/>
(神奈川県南足柄市広町 1507 電話 0465-72-2010)

集合地：3月14日(土) 午前9時 JR 新宿駅西口

解散地：3月15日(日) 午後3時頃 JR 新宿駅西口予定

予定日程 (交通はバス、所要時間は2時間程度)

一日目：新宿駅バス発→現地到着→オリエンテーション→遊ぶ→昼食→遊ぶ→
アウトドアクッキング→夕食→振り返りアクティビティ→就寝

二日目：朝食→そうじ→農園着→採取したものでアウトドアクッキング・昼食→
バス出発→新宿駅で解散

定員：小学5年生以上高校生ままで 20名

先着順。申込み切りは3月6日(金)まで

ファシリテーター：鍵水愛(NPO 法人信州アウトドアプロジェクト ディレクター)

参加費：15,000円(バスチャーター代、食費、旅行損害保険加入費)

事前説明会：今回はありません。申し込み後に案内を郵送いたします。

お申し込みは裏面を使ってFAXをお送りください

のびのびヒーローズ・ダダ 代表：服部いづみ、永吉美智枝、大久保豪

Eメール：dada2006@mail.goo.ne.jp



2009年 はる体験ジャー

～ 足柄の春～



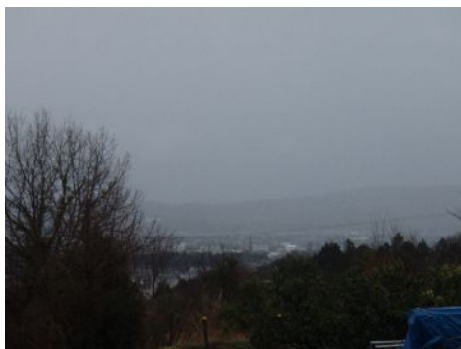
のびのびヒーローズ・ダダ

3月14日(土)

14日朝、参加者はそれぞれ大船と新宿から新松田の駅へ向かいました。

新松田からは  で大雄山駅へ。

大雄山の駅の前には**金太郎**さん。
そう、足柄といえば**金太郎**です。
前掛けが本物なのがちょっと不気味。



1日目は足柄にある [Project Adventure](#) の施設へ。

お昼前に到着。しかし、寒かった。



さて、[Project Adventure Japan](#) は
さまざまなチャレンジプログラムを提供してくれています。

そのチャレンジプログラムを
「参加者のみんなで」、「協力して」、「達成する」
ことを目指します。

ではどんなプログラムなのか??

はいっ、こんなやつです。

木の板にたくさんの凸がついています。

これをどうするのかって・・・
・・・登るんです。自分の力で。

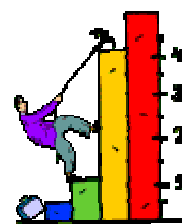


そんな危ない!?大丈夫。ちゃんと命綱をつけて登ります。

そしてその命綱を握るのが、一緒に参加する仲間、というわけ。
登れるはずない！と思われた方もいると思います。

でも大丈夫。登り切ることが目的なのではありません。

「チャレンジする」ことが大事なのです。



登った距離が 5m だろうと、1m だろうと、10cm だろうと、
それがその人の「チャレンジした」結果であれば全て OK！
自分が思う限界のその先を目指すことが大事なのです。

Project Adventure Japan の施設には「チャレンジ」ができる設備がたくさん。

今回はその中から 1 つをチョイス。

さて、みなさんどれをチョイスするのでしょうか???

みんなで話し合った結果、
チョイスしたのはこれ。

右側に人が乗れそうな板がありますね。

左側に空中ブランコみたいに
ぶらさがった木の棒がありますね。



さて、これをどうするかというと・・・



飛ぶんです。板から。

そして、木の棒に捕まることを目指します。

そしてその板の高さは・・・

高いです。

めっちゃ高いです。

よし飛んでみよう、ぴょん！

ってなかんじの高さではありません。

こんなの飛べるのか???

まず、台に上ります。

丸太に付けられている足場に
手と足をかけて登っていきます。

写真ではよく見えませんが、
命綱をきちんとつけています。
そして、その命綱の先は・・・
仲間たちが持っています。
登る人の安全はみんなで守るわけです。



登り切って、板の先端に立つとこんな感じ。

見事なへっぴり腰。

立ってみるとわかりますが、
自然と足が震えてきます。
自分で止めようと思っても
止まらないんですね。

さて、ここからが一苦労。
飛ぶ決心をきめるまでに悩み、迷い、悩み、迷います。

登る前は「大丈夫！大丈夫！」なんて思っている、
上に来てみるとそんな気持ちは吹っ飛んでしまいます。



ただただ怖い！高い！
ここで大切なのは仲間の励ましです。



「みんな命綱を持っているよ」
「自分のタイミングでいいよ」「今は風が強いから、おさまってからの方がいいよ」
思い思いの声をかけます。

しかし、上に立った人はなかなか決心がつかないものです。

いくら命綱をつけているといっても、怖いものは怖いんです。

それでもなんとか心をきめて、ジャンプ！

するとこうなります。

宙につられてぶらんぶらん。



飛べた達成感と、無事だった安心感と、ぶらんぶらんとした浮遊感

それがないまぜになって不思議な感覚に陥ります。

ここからは仲間の手助けを借りてゆっくりと地上へ。

中には「楽しい！おもしろい！もっとゆっくりおろして」なんて叫んだ人もいました。さて、お疲れ様、ということで宿舎へ。

この日は「足柄ふれあいの村」に泊まりました。

園内は木がうっそうと茂っていました。その中にあるコテージが宿泊場所。



コテージについて、少し休憩したら、夕飯のカレーを作りました。

薪割り、火起こし、野菜の準備、お米炊き・・・

それぞれに分担した仕事を
黙々と(?)こなしていきます。

苦労した甲斐もあって、おいしいカレーができました。

3月15日(水)

前日とはうって変わって



みんなで車に乗って近くの農家に向かいます。

着いた場所はこんなところ



ここで農家のおばあちゃんに教えてもらいながら、
みんなでよもぎもちを作ります！



まずはよもぎ摘みから。

春ののどかな陽射しの中、これかな？あれかな？とみんなでよもぎ摘み。

中にはよもぎじゃないものも混ざってる??
そんなことはありませんでした。



摘んできたよもぎとおもちを
農家の庭先で蒸しました。



蒸したもちとよもぎを棒で混ぜます。
腰を入れないと、
すぐに疲れてしまいます。

うまく混ぜられないと、
すぐにおばあちゃんに怒られます。

気むずかしいおばあちゃん？確かにね。
でもそれがみんなへの優しさです。

ある程度混ざったら手でこね始めます。

おばあちゃんが見本を見せてくれました。

その見本の通りに・・・ってこれが難しい。

何と言っても



それもそのはず、さっきまで
蒸し器で蒸されてたんですから。



なんでおばあちゃんは苦もなく素手でこねられるのか??

おばあちゃんいわく、

「昔はこういうことができないと嫁にこれなかった」とのこと
時代の違いを感じた瞬間でした。

こねた後はちぎって一口大のおもちにしていきました。

あんこをつける人、
餅であんこを巻く人、
きなこをつける人、
きなこつきあんころもちを作る人、
思い思いに餅作りを楽しみました。



そしてみんなでいただきます。

お天気のよい庭先でミカン箱をテーブルにして食べる

よもぎ餅は格別でした。

体力を使い果たした後だけに、みんな食べる食べる

食べ終わった後は、片づけをして、

おばあちゃんにお礼をいってさようなら。

とってもいい経験ができました。

帰りはロマンスカーに乗って新宿へ。
大人はみんな疲れ果てていましたが、
子どもたちはまだまだ元気。
お別れを前に、最後の一盛り上がり。



新宿に着いたら、お迎えに来ていたお父さん、お母さんの元へ。
そしてさようなら。
1泊2日の短い時間でしたが、みんな何かを感じてくれたのでは??
また会いましょうね。

のびのびヒーローズ・ダダ

